

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	高齢者の運動による健康づくり事業	会計	介護保険	事業No.	268	施策順No.	35-047
		事業種別	政策・その他	予算科目	5-1-2-10-22		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名			保健課		
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	16	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	75歳以上の市民、特に転倒に不安のある人						A十分達成したBどちらかといえば達成したCどちらかといえばできていないDほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		75歳以上の人口 人	15595	16051	16341	16614		
	意図	①転倒を防ぐ身体づくりをめざす ②身体能力の維持向上を図る ③バランス能力の向上や筋力アップを図る						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	教室に参加し、効果があったと感じている人の割合	98	98	98	98	98	98	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	心身ともに運動による効果を感じている参加者が97.5%であり、好評を得ている事業である。教室参加時だけでなく、自宅でも運動を継続し、習慣化できるような支援を検討していく。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	75歳以上の高齢者を対象に、体力維持、転倒予防のための筋力およびバランス機能等を維持向上する運動を実践する事業。名古屋市立大学への研究委託事業「健脚大学」として開始。19年度に委託を終了し、20年度から健脚大学フォロー教室として5地区公民館で月2回実施。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	健脚大学フォロー教室 毎月2回5地区で転倒予防、筋力アップを目的とした運動教室開催	1 健脚大学フォロー教室 2 参加人数	1 5教室 2 延べ 118回 1,904人
23年度実施計画	健脚大学フォロー教室 自己体重を利用した筋力づくり運動、バランス運動を実施する。	1 健脚大学フォロー教室 2 参加人数	1 5教室 2 延べ 1,800人

3 事業コスト

事業費	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 20年度から、健脚大学は介護保険特別会計で実施。19年度は国保会計で実施。	
	特定財源	国庫支出金	83	82		104
		県支出金	41	41		52
		起債				
		その他	100	98		125
		一般財源	110	107		136
	計 (A)	334	328	417		
	正規職員所要時間		236			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計 (B)		844			
	トータルコスト A+B		1,172			

4 事業に対する市民や議会の意見

なし

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	高齢者が安心していきいきと暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して暮らせている高齢者の割合 いきいき暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	筋力、バランス能力の向上により、筋骨格系疾患を予防し、健康で元気な高齢者の増加の一助となっている。		
	後期に向けた課題	教室の継続、維持		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	教室で実践している運動を、毎日の生活の中で習慣化できるように、意識がけを促してきた。		
	後期に向けた課題	運動の習慣化。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	運動指導者に、教室における指導を依頼し、保健師の人件費を削減している。		
	後期に向けた課題	自主運営ができることで、コスト削減に結びつくが、参加者の年齢から考えると自主化は困難。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	個人使用する運動用具は参加者自己負担とし、講師謝礼の50%は会費より支出している。		
	後期に向けた課題	受益者負担の程度は適当であり、今後も同様に負担をお願いしていく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①参加者、教室の運営 ②講師の手配など事務的な面で支援している。		
	後期に向けた課題	参加者による自主運営方式の充実。		
全体を通じて	4年間の振り返り	心身ともに運動による効果を感じている参加者が多く、好評を得ている事業である。		
	後期に向けた課題	運動指導者の後継者の育成が大きな課題。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--